

ツマジロクサヨトウにご注意ください

1 ツマジロクサヨトウについて

ツマジロクサヨトウは、南北アメリカ原産の農業害虫です。近年アフリカからアジアで分布を拡大し、令和元年7月に国内で初確認されました。

群馬県では令和2年8月に初飛来を確認しています。

本種の幼虫は、広食性で、海外ではトウモロコシ、ソルガム、イネ、野菜類等、80種類以上の農作物を食害することが知られています。国内では飼料用トウモロコシを中心に、ソルガム、スイートコーンなどへの寄生が確認されています。

2 群馬県での食害の状況

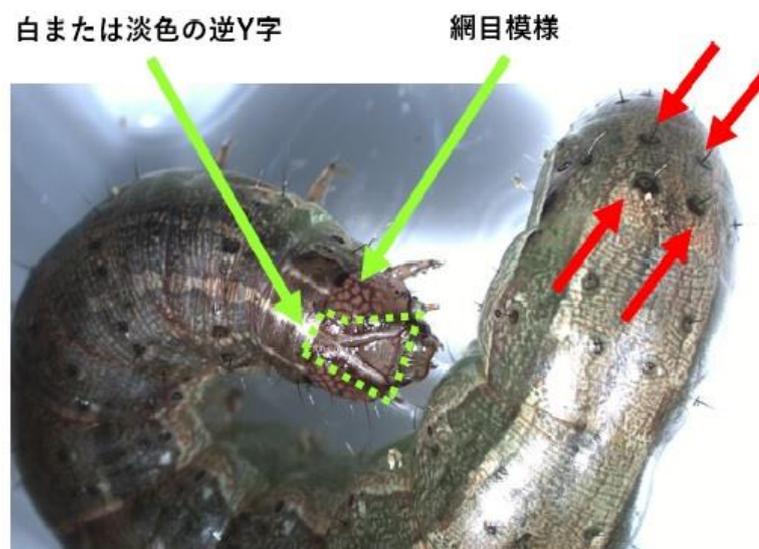
令和2年9月に飼料用トウモロコシでツマジロクサヨトウによる食害が確認されました。その後の調査で県平坦部の広い範囲の飼料用トウモロコシで食害が確認されました。

食害を確認した飼料用トウモロコシは遅まきのものが多く、茎頂部の軟らかい葉を好んで食していました。食害を受けた飼料用トウモロコシは、その後回復し、大きな被害は見られませんでした。

3 ツマジロクサヨトウの幼虫の特徴

頭部に白または淡色の逆Y字の紋があり、紋の両側に網目模様が見られます。加えて、腹部後部の刺毛基板が黒または褐色で大きいという特徴を持ちます。

(写真1)



刺毛基板（赤色の矢印）が大きく目立つ

写真1 ツマジロクサヨトウ幼虫の特徴

(写真提供 群馬県農業技術センター)

4 食害痕の特徴

ツマジロクサヨトウの幼虫は、茎頂部の軟らかい葉に食入し、まだ開いてない葉を食害します。このため葉の周縁部の食害は少なく、葉に列状の穴や不定形の穴が見られることが特徴です。（写真2）



図2 飼料用トウモロコシでの食害痕

（写真提供 群馬県農業技術センター）

5 本年の飛来状況

6月10日に本年の県内への初飛来を確認しました。昨年より約2か月早い初飛来です。

昨年は、初飛来が確認された約1か月後から食害みられたことから、今後注意が必要です。

6 防除方法

ツマジロクサヨトウに登録のある農薬で防除します。

生育が進んだ飼料用トウモロコシなど、農薬の散布が困難な場合は早期収穫を行います。

収穫後は、残さや土壌中に幼虫やさなぎが残存している可能性があるため、速やかに複数回耕うんしてください。

また、漏生種子による再生株なども発生源となりますので、ツマジロクサヨトウの発生の有無にかかわらず、収穫後は速やかに耕うんを行いましょう。

リンク：群馬県農業技術センター

令和2年度 病害虫発生予察特殊報 第1号 ツマジロクサヨトウ

https://www.pref.gunma.jp/07/p142_00081.html

農林水産省 ツマジロクサヨトウに関する情報

https://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/keneki/k_kokunai/tumajiro.html